

レポーター：学芸員の本田さんです。本田さん、よろしくお願ひします。

学芸員：はい、よろしくお願ひします。

レポーター：本田さん、こちらではどのようなものが展示されているんですか。

学芸員：こちらのコーナーではですね、博多区にあります博多遺跡群から出土した土器を展示しております。で主にですね、こちらで展示してるのは、鎌倉時代から江戸時代までの土器を展示してるんですけども、実はこれ出てきているもののほんの一部。：ですね。本来はですね、もう数万点、数十万点という土器が博多では出てまして。

レポーター：そんなにたくさん出てきてるんですか。

学芸員：そうですね。鎌倉時代から室町時代にかけて博多っていうのが日本で一番大きな交易港。中国、韓半島を相手にした貿易の拠点になってますので、そちらから持ち込まれた積荷がこちらの博多に卸されてですね、それから全国各地に流通していくんですけども。

レポーター：博多が中心ですね。

学芸員：国際港、博多だった。でその中でですね、やっぱり荷物の集積場が博多にありまして、そこで割れている商品なんかはですね。

レポーター：そうですね、割れてますもんね。

学芸員：どんどん捨ててですね、いいものが各地に流通していく。その形態の中で、いろんなものが博多の中で捨てられてですね、どんどん溜まっていったのを我々が発掘調査で発見してですね、こういう形で展示していくコーナーになってます。

レポーター：こんなにきれいに残ってるんですね。

学芸員：そうですね、大事なものをですね、箱に入れて地下になおしている商人、そういった方もおられたみたいでですね。

レポーター：じゃあ、箱のまま見つかるっていうことがいっぱいあるんですか。

学芸員：そうですね。やっぱ箱は木質なんで。

レポーター：はい。

学芸員：掘ったときに、箱の形で残ってる。あ、ここに箱があったんだな。その中にこういったきれいなものがですね、重ねて置いてあったりする場合がありますので。

レポーター：えー。でも、今でも使えるっていうか、おうちにあるっていう感じのきれいな。

学芸員：そうですね。使える、十分に使えるものですけども、やはりこれは文化財なんで、見ていただいて学ぶための資料になってます。で、今ですね、こちらで展示してるのは主に鎌倉時代から江戸時代までの土器なんですけど、実は博多遺跡っていうのはですね、古い時代から人は住んでいました。最近ですね、博多千年門という名称でですね、門が作られることが決まったんですけども、実は博多って 2400 年もの歴史がありまして。日本に稲作が伝わったすぐ直後くらいから、人がずっと住んでいる。

ということが最近わかってきています。博多遺跡群の場所柄ですね。川の近くにある河口のそばですね。ということは、そういったいろんな外国の人間が入ってくる。一番の玄関口が実は博多だったということもわかってきてます。

レポーター：なんかうれしいですね。

学芸員：そうですね。ですけど、まだまだ博多遺跡群発掘調査がほんの数パーセントしか行われていませんので。

レポーター：数パーセント。

学芸員：今後、もっといろんなことがわかってくるかもしれません。

レポーター：まだまだ、たくさん埋まっているんですね。

学芸員：そうですね。

レポーター：なんだかワクワクしますね。

学芸員：はい。大変です。

レポーター：本田さんちょっとずっと気になっているんですけど。あちら。埴輪ですよね。

学芸員：はい。これは円筒埴輪といいます。

レポーター：円筒埴輪。

学芸員：えーとですね、埴輪というと皆さんあの人型の埴輪を想像されると思うんですけど、九州ではですね、古墳の周りに立っている埴輪の大部分がこの傘立てみたいな円筒埴輪というのがだいたいメインになります。

レポーター：そうなんですね。円筒埴輪。

学芸員：円筒系のただの筒です。

レポーター：これは何かの意味があるんですか。

学芸員：えーとですね、いろんな説があるんですけど、これはですね大事な人のお墓をですね、一般の人が住んでいる集落とは隔する、まあ聖域を示す標識として使われたという風にいられてます。

レポーター：円筒埴輪やこれは人物埴輪。

学芸員：そうですね。

レポーター：これは人ですか。

学芸員：はい。残念ながら、人物の部分は残ってないんですけど、これが両足の部分ですね。足首のところから残ってる。

レポーター：じゃあ、本当は上にもっともっと。

学芸員：そうですね。どんな人が上に乗っていたのかわからないんですけども、こういった足首にアクセサリーをつけるような人が上に乗ってた。

レポーター：そうですね。おしゃれですね。

学芸員：はい。

レポーター：こちらも、人物埴輪、女性。こちらはお顔になっているんですか。

学芸員：いえ、これは胴体ですね。手、手。で首の部分が残念ながらなくなってしまっているものになります。

レポーター：どんなお顔だったんですかね。気になりますね。

学芸員：そうですね、すごい気になるんですけど、残念ながら残ってないんで、わからないですね。

レポーター：面白い。本田さんこれは朝顔、はんだ埴輪？

学芸員：これはですね。

レポーター：朝顔ってお花のですか。

学芸員：朝顔の花のようにですね、ぱつと後円部、口が開いているので朝顔型埴輪という名前がついて。

レポーター：面白いですね。

学芸員：そうですね。

レポーター：ちなみに、これはどこから、出土したんですか。

学芸員：今博多区にあります、アサヒビール園の中に古墳がありまして、その東光寺剣塚の周りの溝の中から見つかったものになります。

レポーター：竹下のアサヒ。

学芸員：そうですね。

レポーター：そうなんですか。

学芸員：あんな都市部にですね、残っているのかといわれると、いかれた方はわかると思うんですけども、工場の中にうっすらとこんもりした森がありまして、実はそれがこの東光寺剣塚という古墳が保存されている場所になります。

レポーター：あんなところから見つかるんですね。面白い。まだまだ私達が住んでいる博多には、見つかっていないたくさん埴輪やね、食器達が眠っているということですよ。

学芸員：はい。

レポーター：もしかしたら、自分達が見つけれられるなんていうのは。

学芸員：えーとですね、発見された場合はですね、是非、市役所の埋蔵文化財課というところに届けていただきたいと思います。

レポーター：本田さん、ありがとうございました。